

社会貢献

OKIグループは、社会貢献活動の基本理念・基本方針に則り、寄付や地域貢献、社員のボランティア活動支援などを組織的に推進しています。より幅広い活動を行うため、各種のNGO/NPOと広く交流・協働し、国内外での活動を強化しています。

東日本大震災への対応

OKIグループは東日本大震災の被災地復興のために、継続的な支援活動を実施しています。

このうち復興支援ボランティア活動は、丸紅株式会社、株式会社みずほフィナンシャルグループ、明治安田生命保険相互会社と協働で実施し、津波の被害を受けた宮城県七ヶ浜町に6回にわたって社員ボランティアを派遣しました。



農地の整備作業

2012年度に実施した支援活動

- 社員による復興支援ボランティア活動
- 「OKI藤文化彩」において東北物産展を開催
- 宮城県七ヶ浜町の「生涯学習フェスティバル」に竹とんぼ作りコーナーで参加
- 福島県赤十字血液センターに保冷庫つき血液運搬車を寄贈（100円募金とのマッチングギフト）

寄付型ボランティア「OKI愛の100円募金」

OKIグループは、活動の主旨に賛同するグループ会社（2012年4月時点で22社）の役員・社員から毎月100円の募金を集める「OKI愛の100円募金」により、ボランティア団体の支援



支援金で出版した短編小説集「サンシンサイとiPhone」

などを実施しています。支援対象のひとつである特定非営利活動法人「ラオスのこども」は、2013年3月、支援金によりラオス語の短編小説集「サンシンサイとiPhone」をラオスで出版しました。これは、2011年に現地の出版社がNGOとの協働で実施した短編小説コンテストで入賞した作品47編のうち17編を収録したものです。応募者および入賞者の多くは「ラオスのこ

ども」が支援してきた学校図書室の利用者で、同法人がこれまで取り組んできた読書推進活動のひとつの成果といえます。

重度障がいのある生徒向けの遠隔職場実習を実施

OKIグループの特例子会社であるOKIワークウェルは、障がい者在宅雇用の経験を活かし、2004年から継続的に、重度障がいのある生徒向けの遠隔職場実習を実施しています。2012年9月には鹿児島県



遠隔職場実習の様子

立鹿児島養護学校において高等部3年生の遠隔職場実習を行い、これまでの9年間で同社による遠隔職場実習を受講した生徒は、全国13校29名となりました。

遠隔職場実習では、生徒の要望やレベルにあわせて、電話または電子メールを利用して、PCの操作方法や各種ツールの利用方法、ホームページの作成、ポスターデザインなどを教えます。生徒側はインターネットにつながる環境であれば、学校や自宅にいながら実習を受けられるため、生徒や保護者の実習現場への移動の負担を低減できます。また、同社で在宅勤務する障がい者が講師を務めることで、生徒の就労への動機付けとなるとの声もいただいています。

タイ王国で環境保護のための水堰き止め柵を設置を実施

タイのプリンタ生産拠点であるOKIデータ・マニユファクチャリング・タイランドでは、2012年10月、同国中部のサラブリ県ジェッサオノーイ滝国立公園で、水堰き止め柵の設置を行いました。これは、公園



水堰き止め柵を設置する社員たち

の治水に対するプミポン国王の提案に賛同し、雨季の土砂崩れ防止と乾季に備えた水を蓄え、また自然環境を保護するために実施したものです。実施場所の選定にあたっては、地域行政機構の森林局と協議し、毎年雨季に山からの大量の水による土砂崩れが発生している同公園に決めました。ボランティアとして参加した社員280名は公園の担当官から設置方法の説明を受け、グループに分かれて10箇所の水堰き止め柵を設置しました。